

## 分娩時ケアの質の改善のための研修



トレーニングで使用予定のツールについて協議している様子

プロジェクトの目指す成果の一つに、「分娩時および早期新生児ケアに関する研修と指導体制の強化」があります。それに関連する活動として、分娩時ケアの質の改善のための研修があり、対象となる分娩介助者の基礎的な知識の定着と適切な分娩ケアの提供を目標としています。今回、その研修内容の確定とともに、第一回指導者研修の実施のために、**2/18-3/16** にかけて増田智里短期専門家が派遣されました。以下、増田専門家からの活動報告です。

### 増田智里（短期専門家、助産ケア）

プロジェクトでは、母子継続ケア改善の一環として、分娩時ケアの質の改善のための研修を今年度より開催する予定です。2019年の2月から3月まで、この研修の準備のために国立母子保健センター研修部と共に活動をしました。研修では、カンボジアの一次分娩施設である保健センターを対象として「正常な出産のケア」に焦点を当てています。



研修のコンセプトについて共有

正常な出産を扱うのは、簡単そうに見えて実はとても知識と経験を要することで、「正常な経過を正常に保つケア」、「異常に傾きかけた状態を正常に戻すケア」、そして「異常に対応する医療・ケアへの適切なアクセス」が必要です。何より大切なのは、お産の経過、赤ちゃんの状態、お母さんの心と体の状態を丁寧に観察し、どのケアが必要なのかをしっかりと見極めることです。今回、研修が目指しているのは、前プロジェクトが取り組んだ「お母さんと赤ちゃんに優しい助産ケア」のコンセプトを根幹として、適切な観察と基礎知識に基づいたお産のケアが提供出来るようになることです。

これらの研修のコンセプトを共有し、どのような研修内容が助産師さんたちの助けになるかを、研修部やカンボジアの助産・産科関係者と話し合うことが私の主な活動であり、正常な出産をみるための観察項目の確定が話し合いの主な論点でした。超音波や胎児心拍数モニターのない環境で出産をみるためには、日本ではすでに重視されていない観察項目も頼りにする必要があります。何十年もそのような環境で出産を介助してきた方々の知識と経験には脱帽するばかりで、私自身、医療機材に頼らければお産がみられなくなっていることを反省させられました。研修内容を共に作り上げるという活動内容ではありましたが、五感を使ってお産をとることを思い出させてもらえた、素晴らしい学びの機会となりました。